

研修実施報告書

研修名

みどりくみらい研究所 さいたま市次世代育成プロジェクト第三弾

法人名

社会福祉法人 久美愛園

開催年月日

2025年8月～2026年3月

開催場所

主に 社会福祉法人久美愛園 大会議室

研修の目的

地域の福祉課題に正面から目を向けて、地域連携を意識した課題解決に力を発揮できる人材を当該地域の中で、ミニマムな集団づくりを通して育成することを目的とする。

研修の内容

研修は、少人数によるいわゆるゼミ形式にて、以下の方法と内容について主体的学習（探究）と情報交換・経験交流を重視して進めた。

【方法】

- ①毎月第三金曜日 15:00～17:00（講義及びディスカッション）
- ②毎月月末までに予め決められたテーマについて1000字程度のレポート提出（必須）。同レポートについては主たる講師である朝日雅也埼玉県立大学名誉教授が適宜添削し、内容・表現の両面から質的向上を図っている。その上で、研修参加者は自身の問題意識に基づき、まとめの研究を行い、口頭発表と最終レポートを提出することになっている。

【内容】

- ・令和7年8月：インクルーシブ教育について考える
特別支援教育の展開、インクルーシブ教育の実現に向けてと題して話題提供を行った。その上で、ゼミ生自身の学校時代を振り返りながら、インクルーシブ教育を進めるために必要なことを議論した。
- ・令和7年9月：入所施設のあり方と地域移行について考える

国際動向や国の施策の方向性を紹介した後、入所施設をめぐる現状と課題、地域生活への移行を促進するための課題について議論した。

- ・令和7年10月：精神障害のある人への保健医療福祉について考える

精神障害者の保健福祉を巡る基本的資料について紹介を行った後、地域生活への移行を促進するための方策についての議論を行った。

- ・令和7年11月：支援を必要とする児童の子育ち・子育てについて考える」

こどもの権利を巡る基本資料として、改正児童福祉法の概要及びこども家庭庁の概要を紹介した後、支援を必要とする児童とは、子育ち・子育てにおける課題についてワークショップ方式（ブレインストーミング）で議論と発表を行った。

- ・令和7年12月：複合化する地域課題とその解決について考える

重層的支援体制整備事業における参加支援事業に焦点をあて、地域課題解決に向けて多様な活動主体による交流が展開する拠点の貸会議室において関連する情報提供を行うとともに、社会参加の本質に関する議論を行った。併せて「プレゼンカアップ」のためのエクササイズも実施した。

- ・令和8年1月：相談支援に焦点をあてた連携協働について考える

障害者相談支援の全体像、ピアの力による相談支援について話題提供した後、相談支援の実践から見た「課題」、相談支援における「連携協働」について議論した。ゼミ生どうしでのピアカウンセリングの体験も実施した。

- ・令和8年2月：障害者計画を批判的に検討する

福祉に関する行政計画について研究者である立正大学社会福祉学部の新井利民教授を講師に招き、障害者支援計画をはじめとした計画策定における課題について、研究調査のエビデンスに基づきながら批判的検証（critical thinking）する体験を交えて議論した。

- ・令和8年3月：実践研究の方法

個別研究に向けて、ソーシャルワーカーが行う実践研究の手順や留意事項について理解するとともに、個別研究で取り組む課題と方法について協議。

研修の成果（今後地域に活かされる点を必ず記載）

一定期間同じメンバーで、講義及びディスカッションを受けることにより、法人や所属が違っていても仲間意識や、連帯感が醸成された。そのことで、研修後地域の中で活動するにあたり、連携や情報交換を進める上で欠かせない円滑な人間関係が築くことができた。また、研修の主たる講師を務めた朝日雅也埼玉県立大学名誉教授（みどりくみらい研究所所長）との個人的な繋がりが構築されたことで、さいたま市次世代育成プロジェクトの第一弾、第二弾の研修参加者との連携協働も含めたより重層的な人脈作りが期待できる。

研修参加者それぞれが解決すべき地域課題は異なっているにもかかわらず、改善に向けた人的資源も含めた地域資源と情報を共有化のために基盤を形成することができたものと判断している。

研修の参加者

【全体人数】 講師含め 10 名

【当該法人の参加人数】 2 名

【当該法人以外の参加人数】 7 名

活動写真 2 枚程度

